

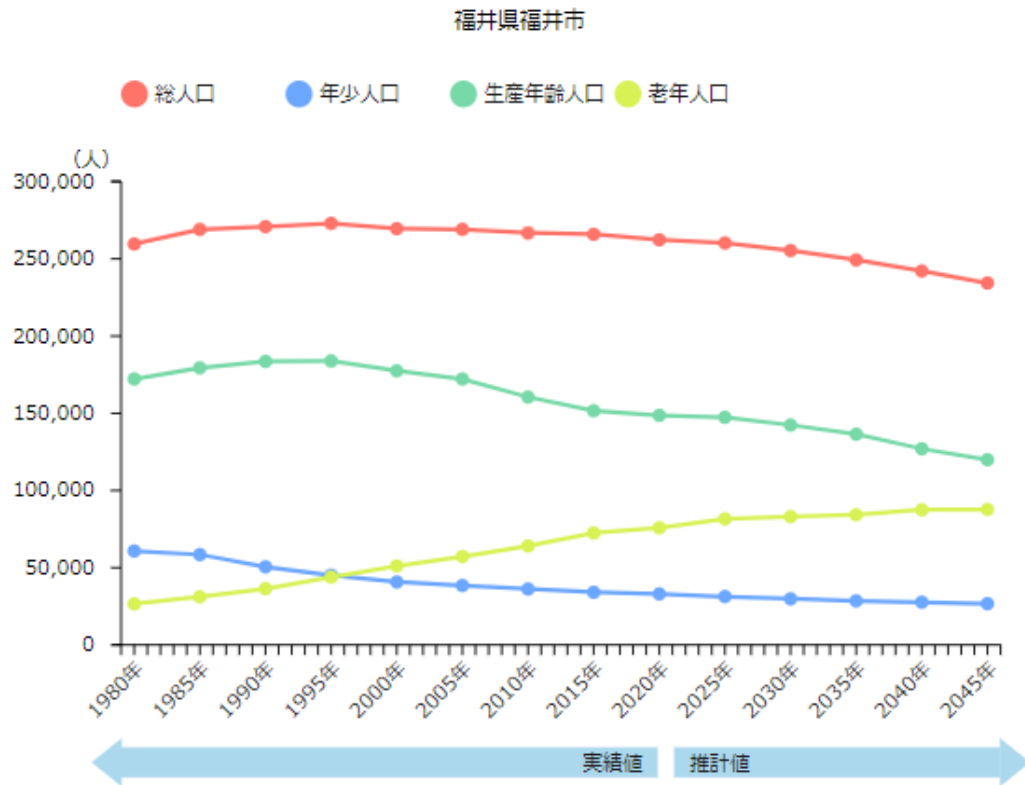
RESASから見える 福井市の姿

福井商工会議所 創業・経営支援課

令和6年3月

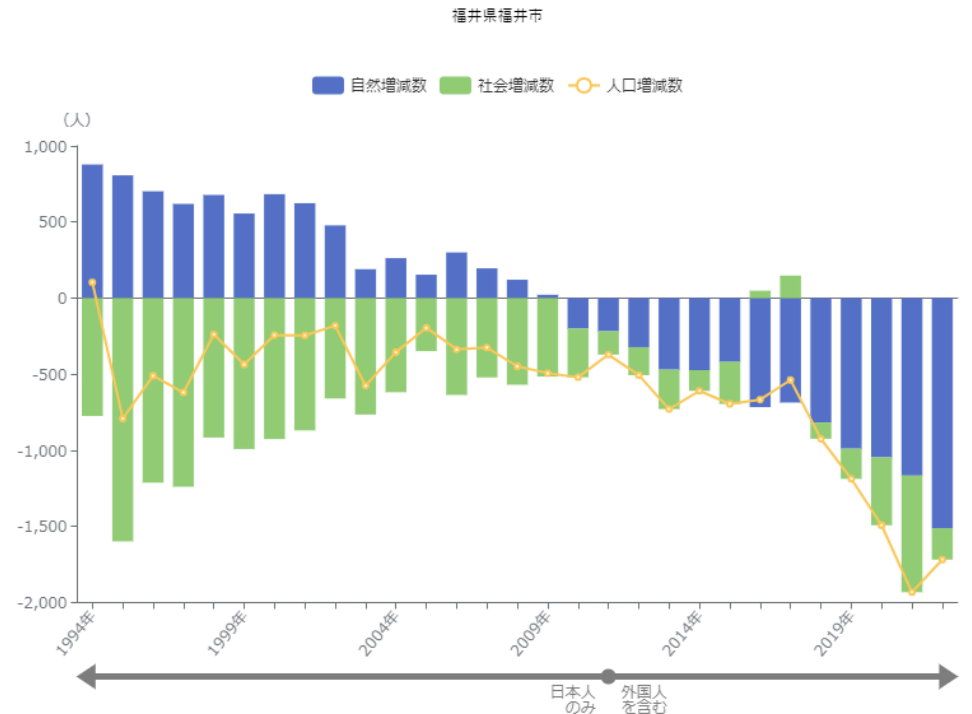
人口

人口推移



- ・総人口は、1995年:272千人をピークに減少傾向にある。
- ・今後も、総人口は減少する見込みにある。
- ・老年人口(65歳以上)は1995年に年少人口(15歳未満)を抜き、一貫して増加傾向にある。

自然増減・社会増減の推移



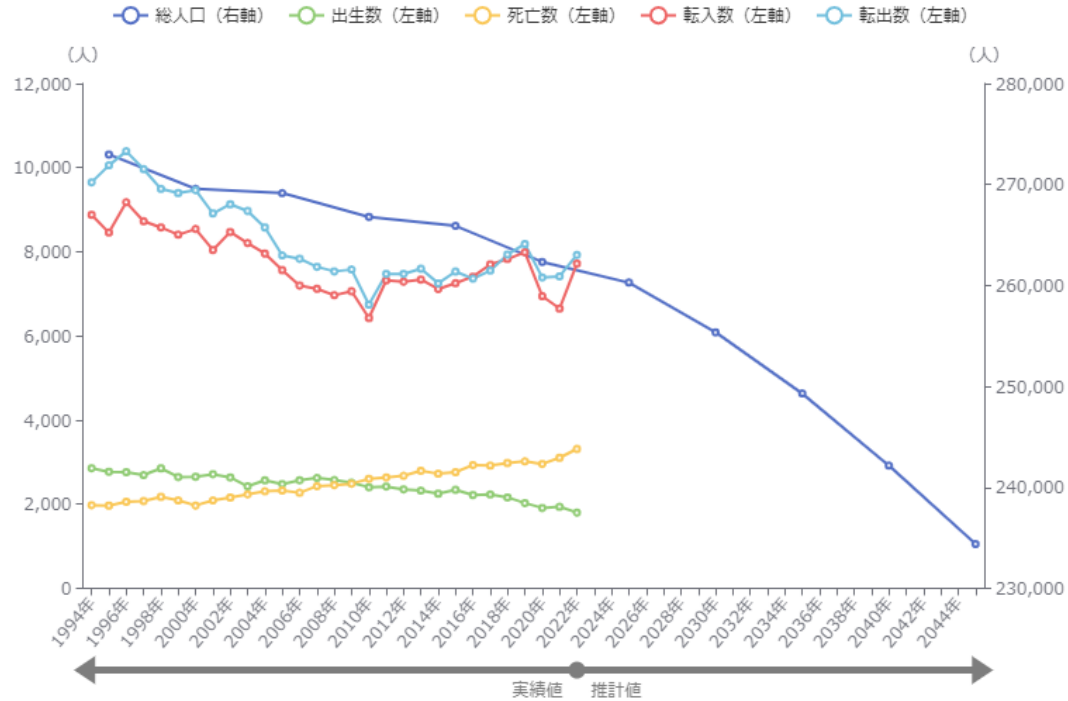
【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

- ・自然増減数は、1994～2009年の間でプラスとなっていたものの、2010年にマイナスに転じた。自然減数は年を追うごとに大きくなっている。
- ・社会増減数は、2016～2017年を除き、一貫してマイナスとなっている。2018年以降は、減少幅が年を追うごとに大きくなり、2021年では-766人となったが、2022年は-207人に留まった。

人口増減・地域間流動①

出生数・死亡数/転入数・転出数

福井県福井市

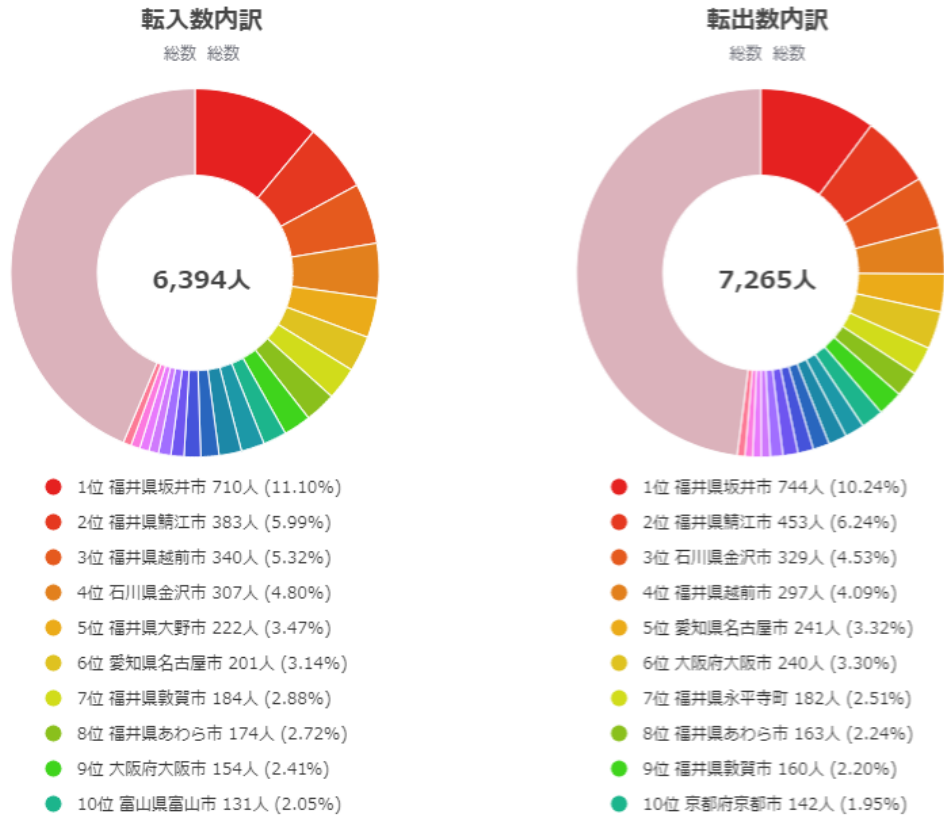


【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

- 総人口は1995年から一貫して減少し、2045年には234,380人になる見込み。
- 死亡数は2009年を境に出生数を上回っている。
- 出生数は減少傾向にあり、2022年は1,802人であった。

人口増減・地域間流動②

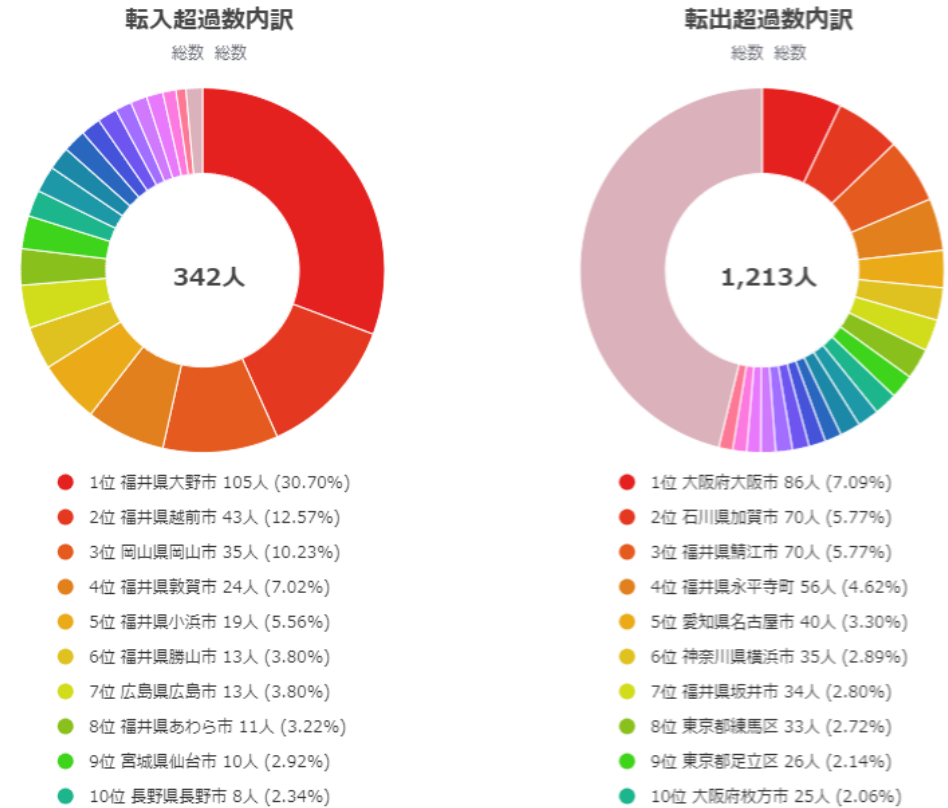
転入数・転出数の上位地域（2022年）



【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

- ・転出数は転入数を871人上回っている。
- ・転入、転出数ともに福井市に隣接する坂井市と鯖江市の割合が大きい。
- ・県外からの転入、転出は北陸、関西、中京が中心である。

転入超過数・転出超過数の上位地域（2022年）

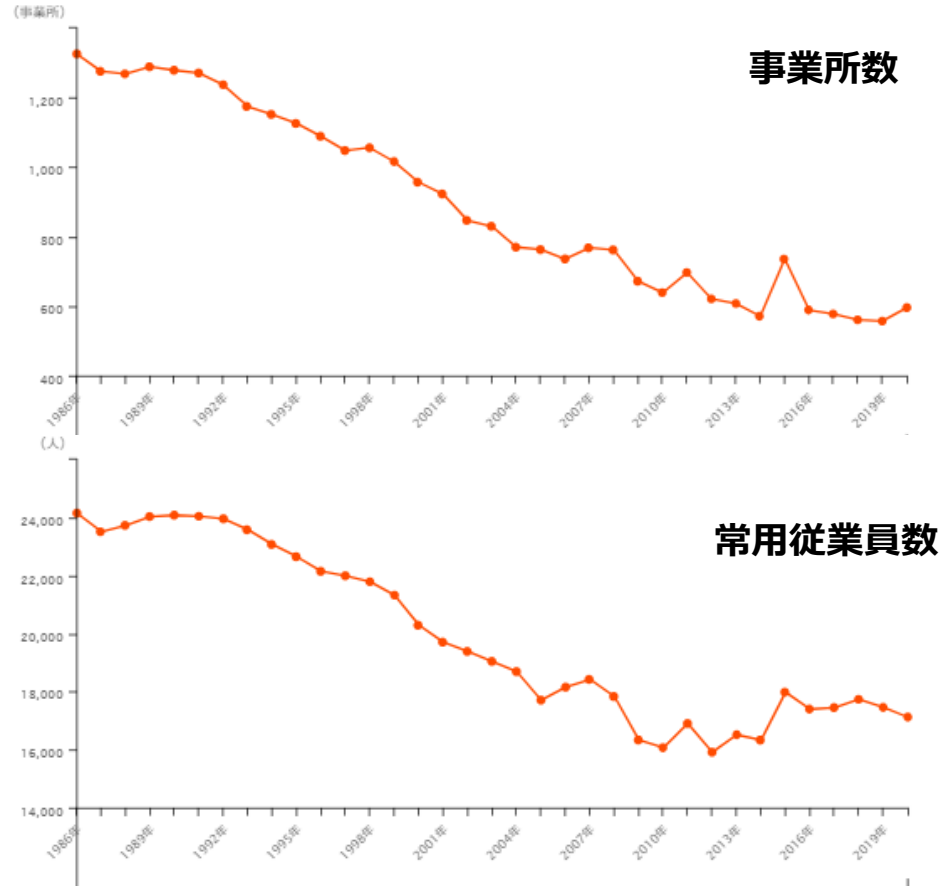


【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

- ・転入超過数は、福井県大野市が3割と最も多い。
- ・転出超過数の上位地域は、県内・北陸、関西、関東、中部の順になっている。

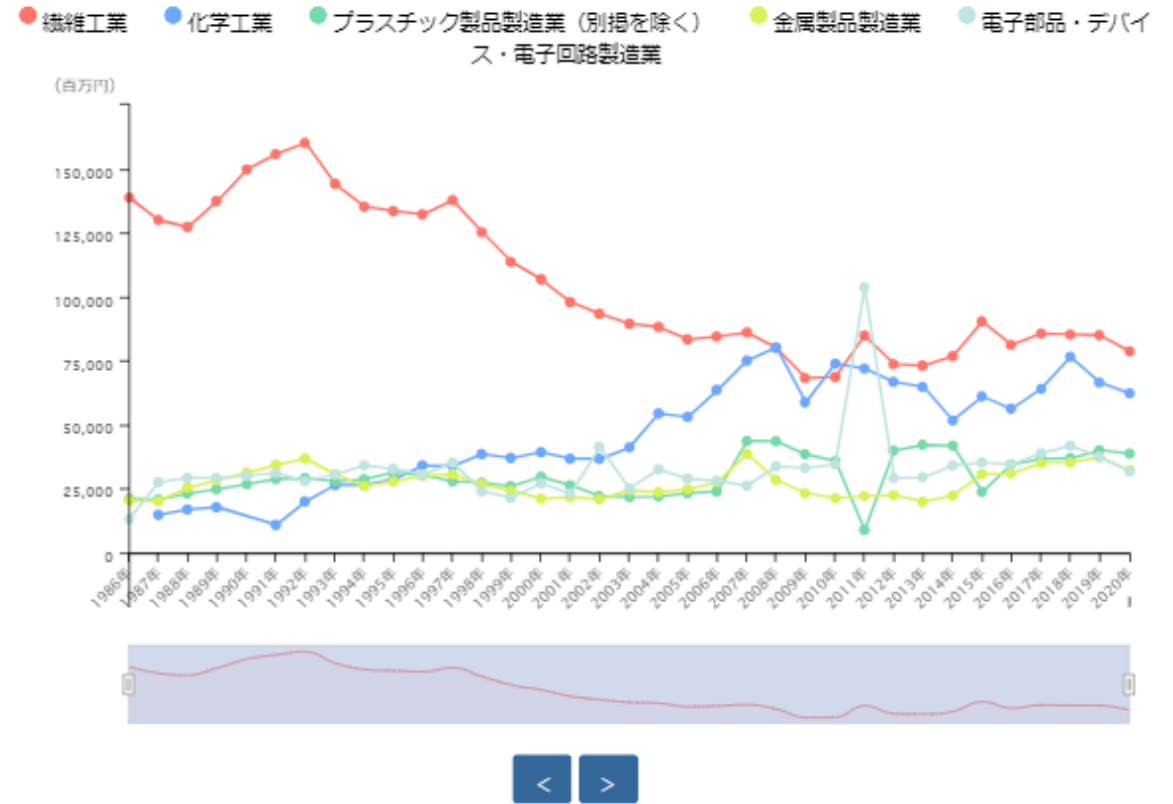
製造業

事業所数・従業者数・の推移



- ・事業所数は、微増する年はあるものの一貫して減少傾向である。
- ・従業者数は、2005年まで減少傾向にあり、17,710人となった後、増減を繰り返している。

製造品出荷額等の推移

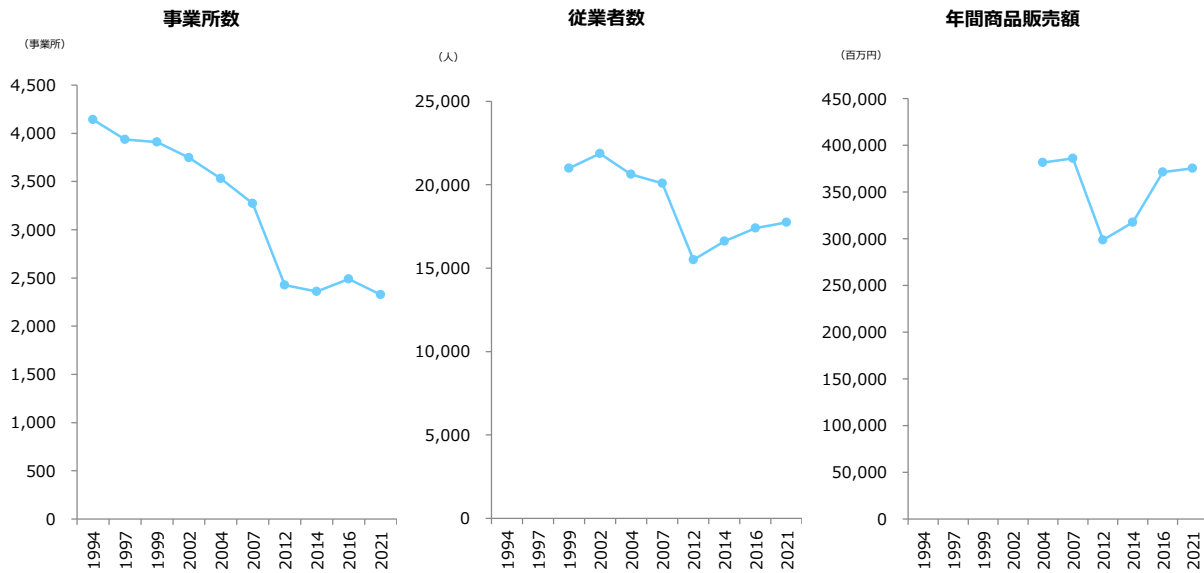


【出典】
 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

- ・繊維工業は1992年をピークに減少傾向となり、2008年からは横ばい。福井市の製造品出荷額の1位を占める。
- ・化学工業は2008年まで増加傾向にあり、横ばいに。2020年は62,229百万円であった。

小売業

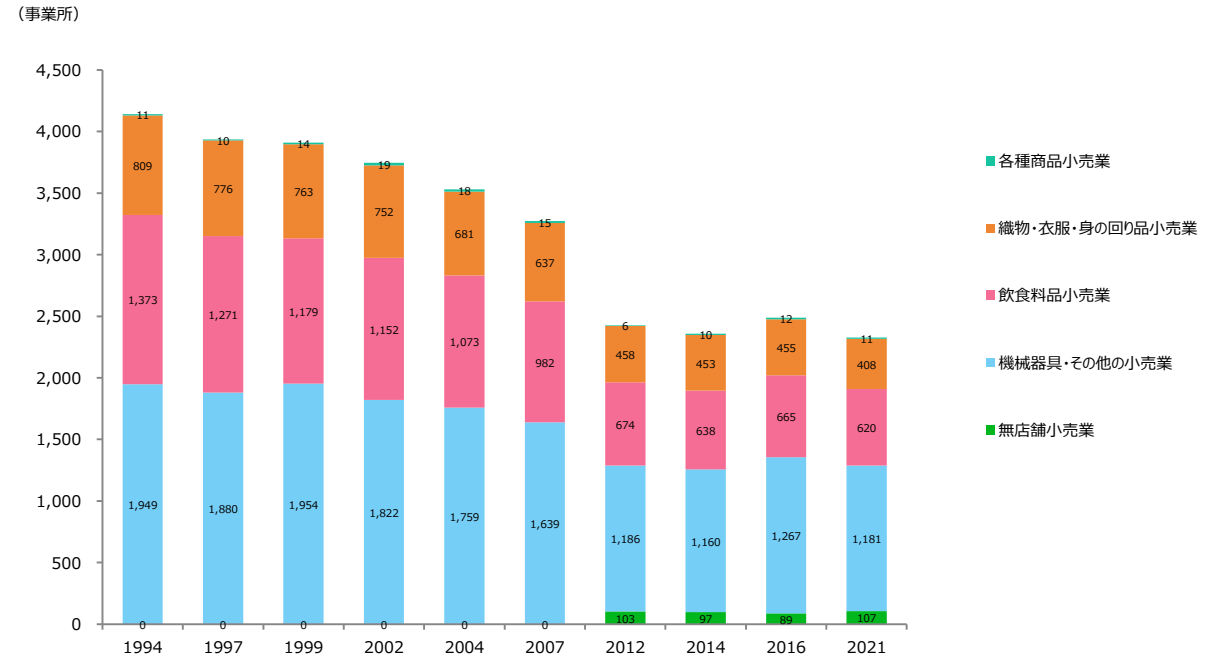
事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移



【出典】経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」
 【注記】2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス-活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間（表示年）の比較が行えない。

- ・小売業事業所数は、1994年から2021年には半数近くの2,327事業所に減少。
- ・従業者数は、2012年の約15,000人から2021年にかけて増加傾向。
- ・2021年の年間商品販売額は、375,539百万円である。

産業別小売業事業所数の変化

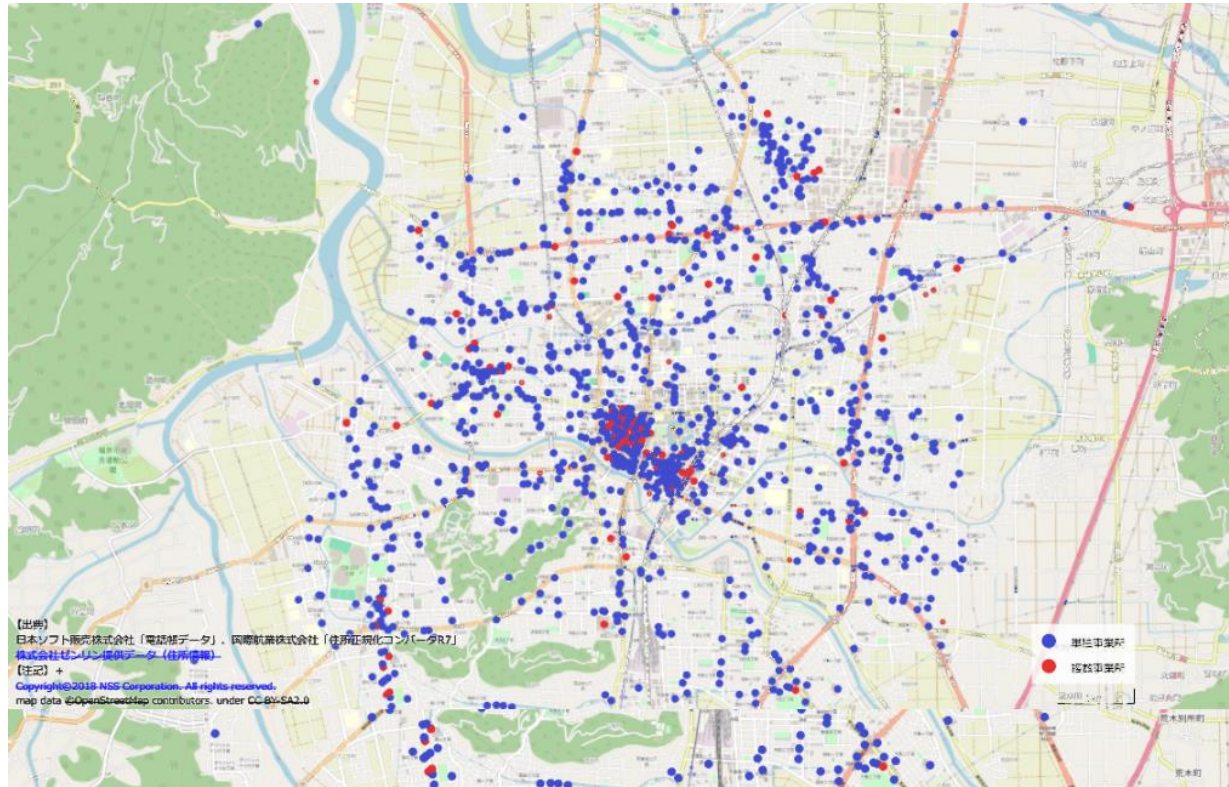


【出典】経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」
 【注記】2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス-活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間（表示年）の比較が行えない。

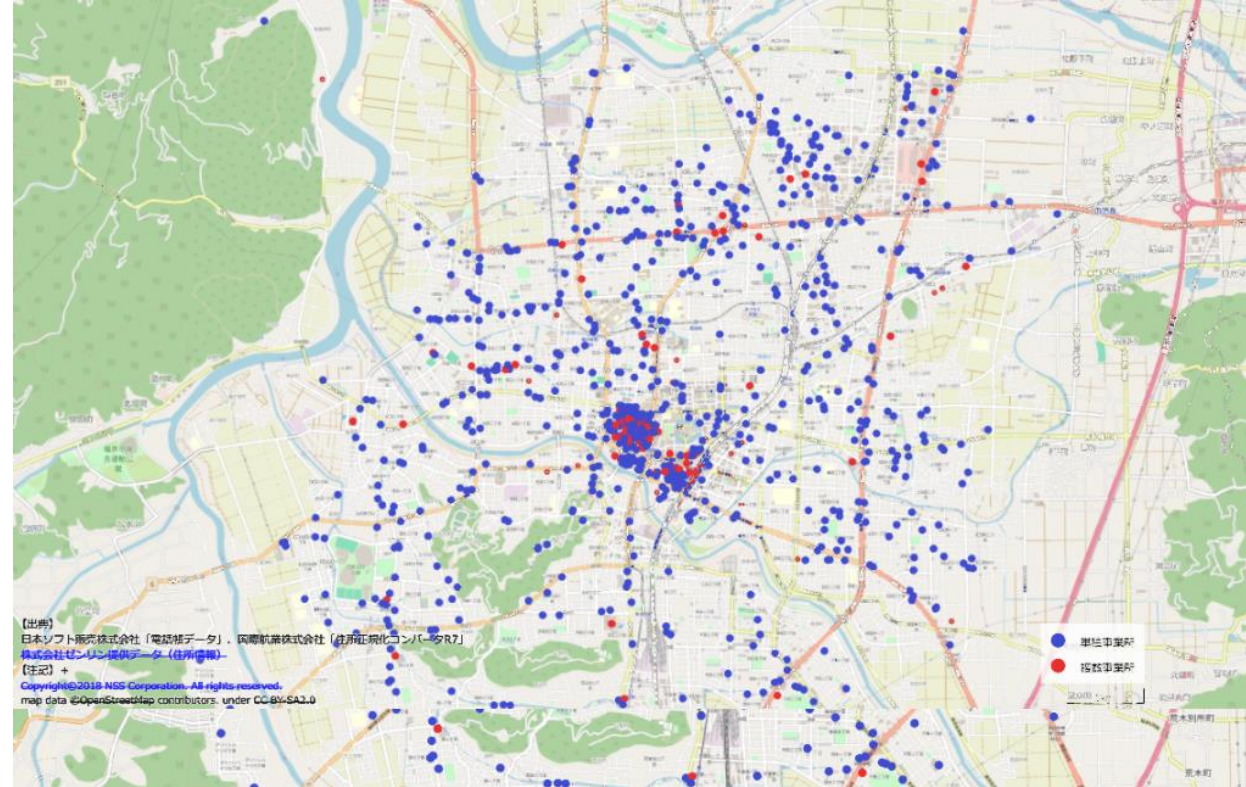
- ・各年「機械器具・その他の小売業」が全体の5割近くを占めている。
- ・1994年は4,142事業所あったが、2021年は2,327事業所となった。
- ・事業所の産業別内訳の割合に大きな変化はみられない。

飲食店の推移

2013年



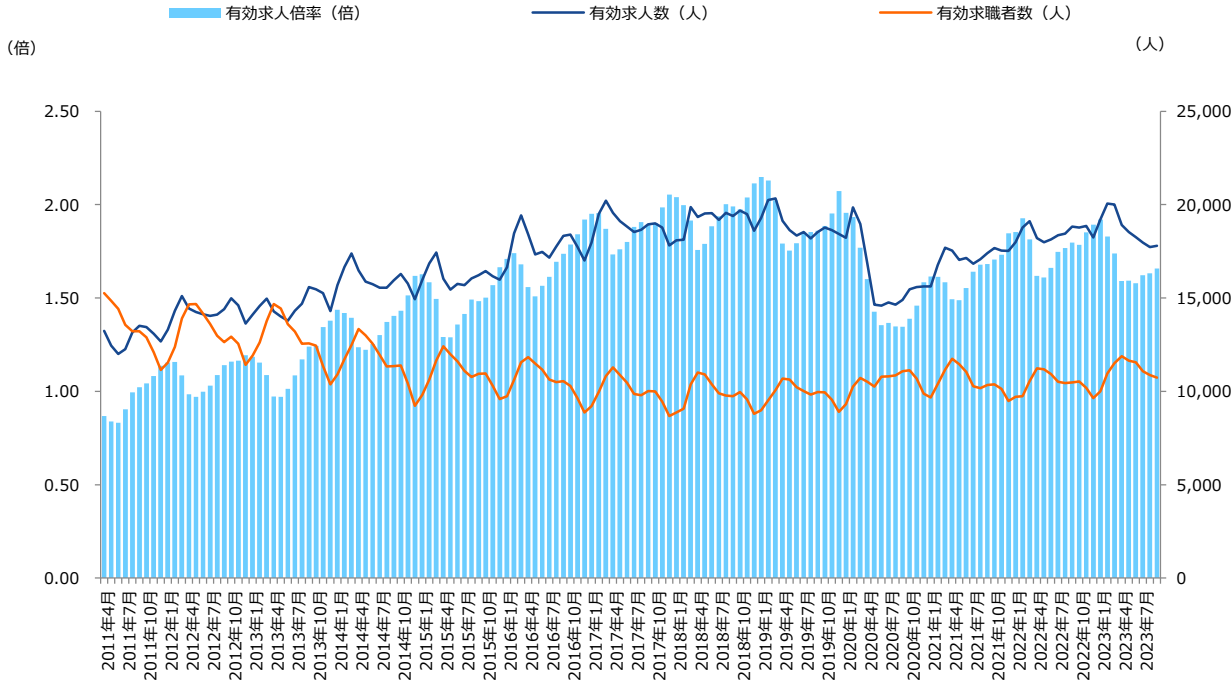
2023年



- 全体的に店舗数が減少し、JR福井駅周辺は単独事業所が減少。
 - 大和田地区を中心に郊外地域の出店が増えた。
- ※青色：単独事業所(同一地点に事業所が1つの場合) 赤色：複数事業所(同一地点に複数の事業所がある場合)

雇用(福井県)

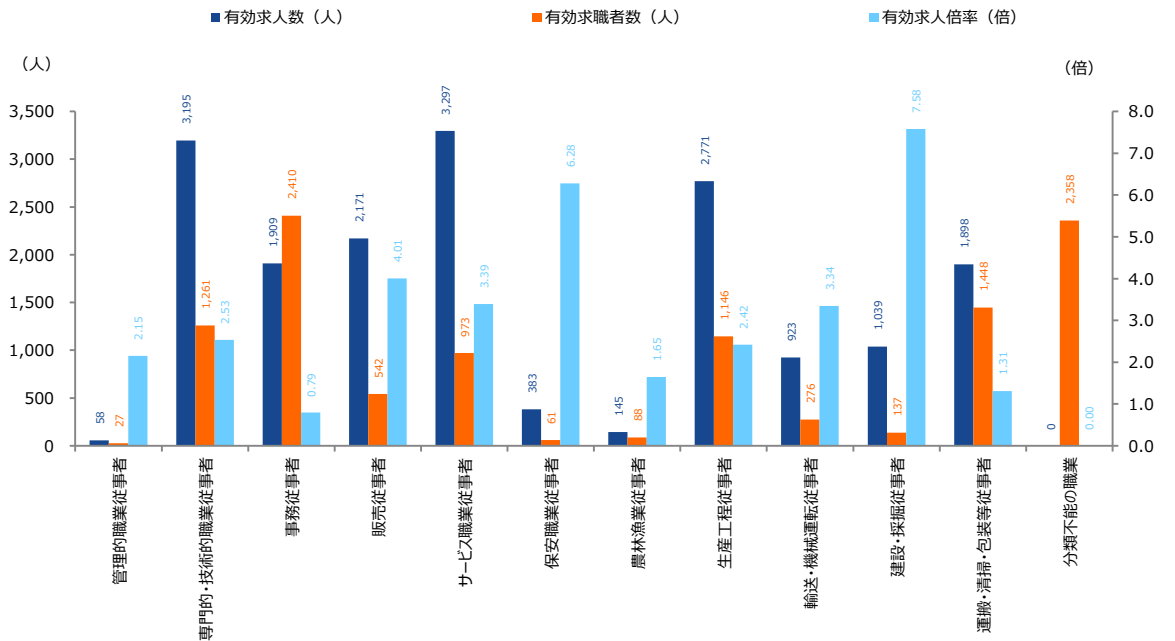
有効求人倍率の推移



【出典】 厚生労働省「職業安定業務統計」

- ・有効求人倍率は、1.5～2倍の高い水準で推移している。
- ・有効求人数は、2020年はコロナ禍の影響もあり減少しているが、2023年3月にはコロナ前と同等の2万人近くまで増加している。
- ・有効求職者数は、季節による変動はあるものの、横ばいで推移し、2023年9月は10,727人である。

有効求人倍率(職業間比較)

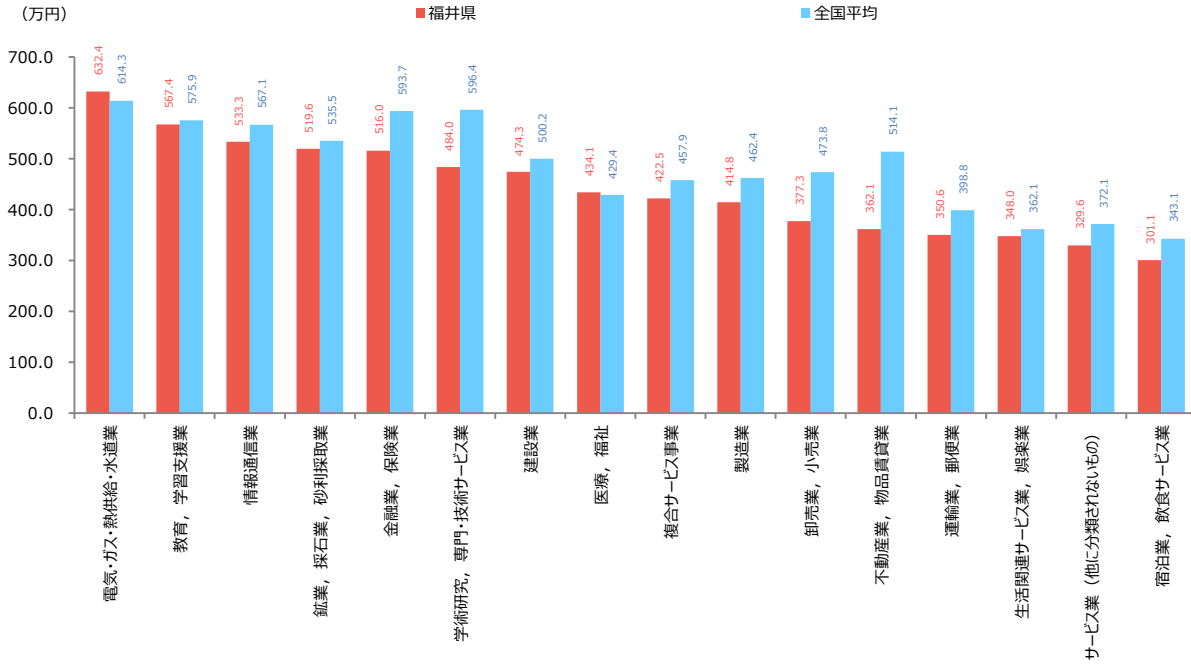


【出典】 厚生労働省「職業安定業務統計」

- ・有効求人数は、「専門的・技術的職業従事者」、「サービス職業従事者」で多く、3,000人を超えている。
- ・有効求人倍率は、「建設・採掘従事者」が最も高く、7倍を超えている。

雇用

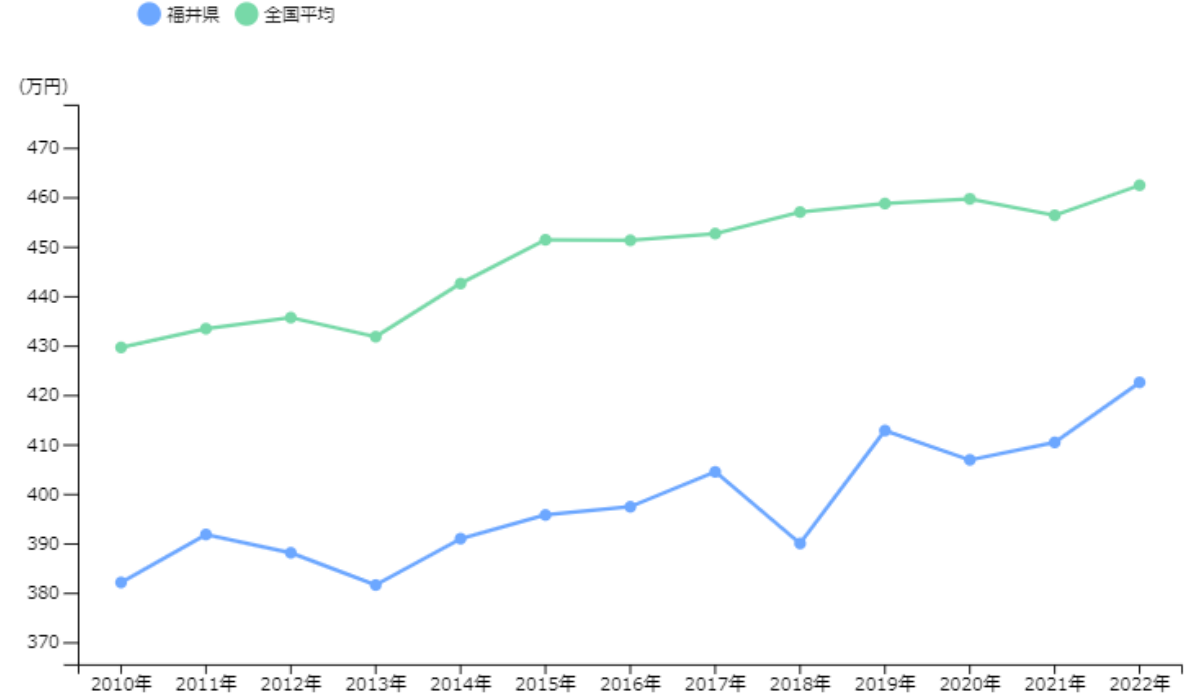
一人当たり賃金(産業間比較)



【出典】 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

- ・「電気・ガス・熱供給・水道業」のみが、全国平均を超えている。
- ・「学術研究、専門・技術サービス業」、「不動産業、物品賃貸業」は全国平均との差が大きく、いずれも100万円以上差がある。

一人当たり賃金(地域間比較)



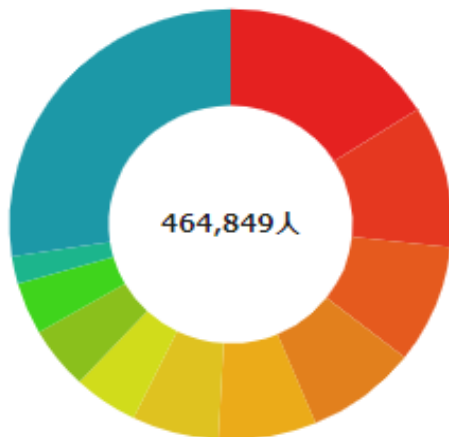
- ・全国平均を下回って推移し、2022年は全国平均と約40万円の差がついている。

地域外宿泊者の傾向

2022年

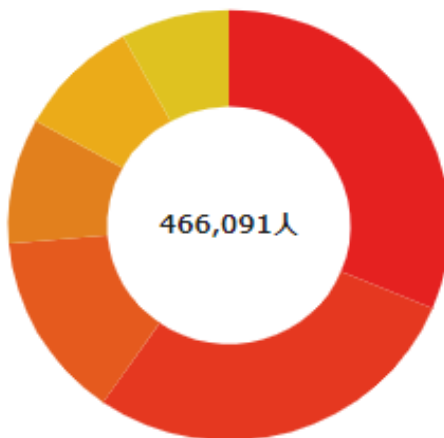
福井県福井市

居住都道府県別



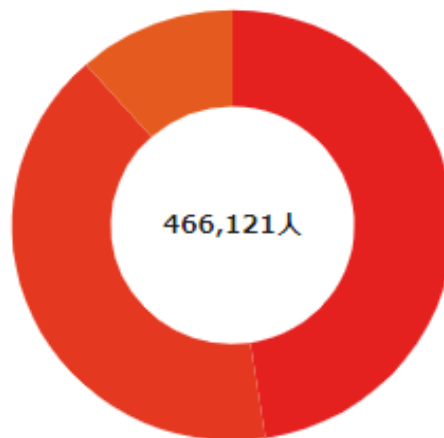
- 1位 東京都 74,604人 (16.05%)
- 2位 大阪府 49,442人 (10.64%)
- 3位 福井県 41,540人 (8.94%)
- 4位 神奈川県 37,695人 (8.11%)
- 5位 愛知県 33,341人 (7.17%)
- 6位 埼玉県 29,411人 (6.33%)
- 7位 兵庫県 22,025人 (4.74%)
- 8位 千葉県 21,814人 (4.69%)
- 9位 京都市 18,091人 (3.89%)
- 10位 石川県 9,580人 (2.06%)

参加形態別



- 1位 一人 145,994人 (31.32%)
- 2位 夫婦、カップル 132,064人 (28.33%)
- 3位 女性グループ 65,307人 (14.01%)
- 4位 家族 43,807人 (9.40%)
- 5位 男女グループ 41,883人 (8.99%)
- 6位 男性グループ 37,036人 (7.95%)

宿泊日数別

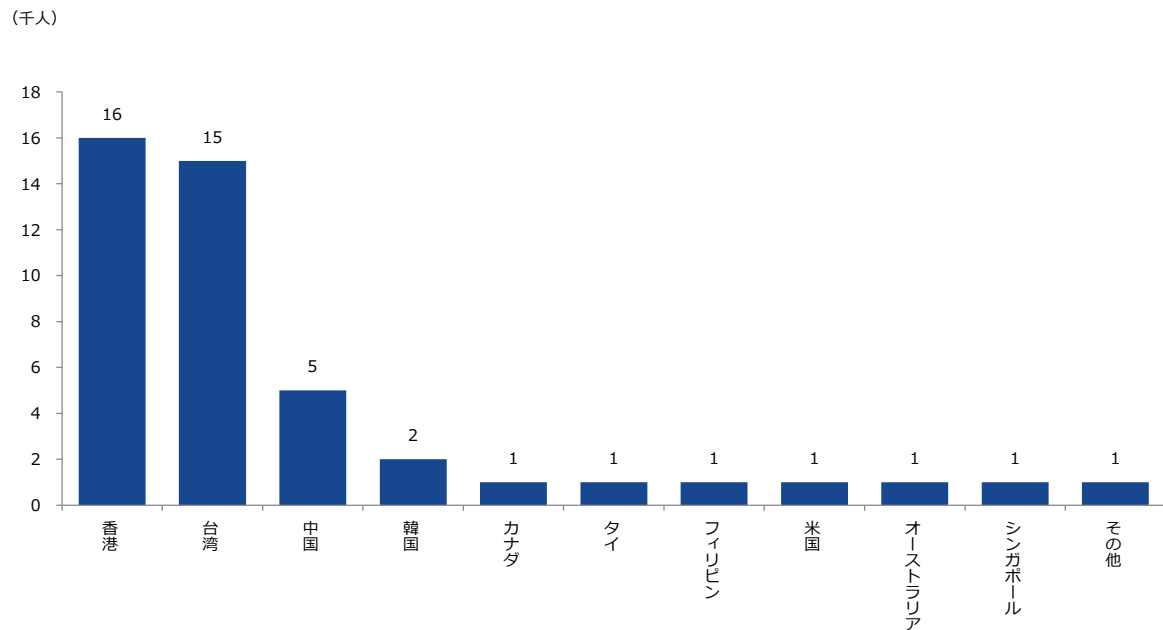


- 1位 1泊 221,984人 (47.62%)
- 2位 2・3泊 190,228人 (40.81%)
- 3位 4泊以上 53,909人 (11.57%)

- ・居住都道府県別では、「東京都」が最も多く74,604人(16.5%)であった。
- ・参加形態別では、「一人」が約3割を占め、出張での宿泊が多く占めていると考えられる。
- ・宿泊日数別は「1泊」が約半数を占めている。

外国人訪問客

地域別外国人訪問客数(2019年)

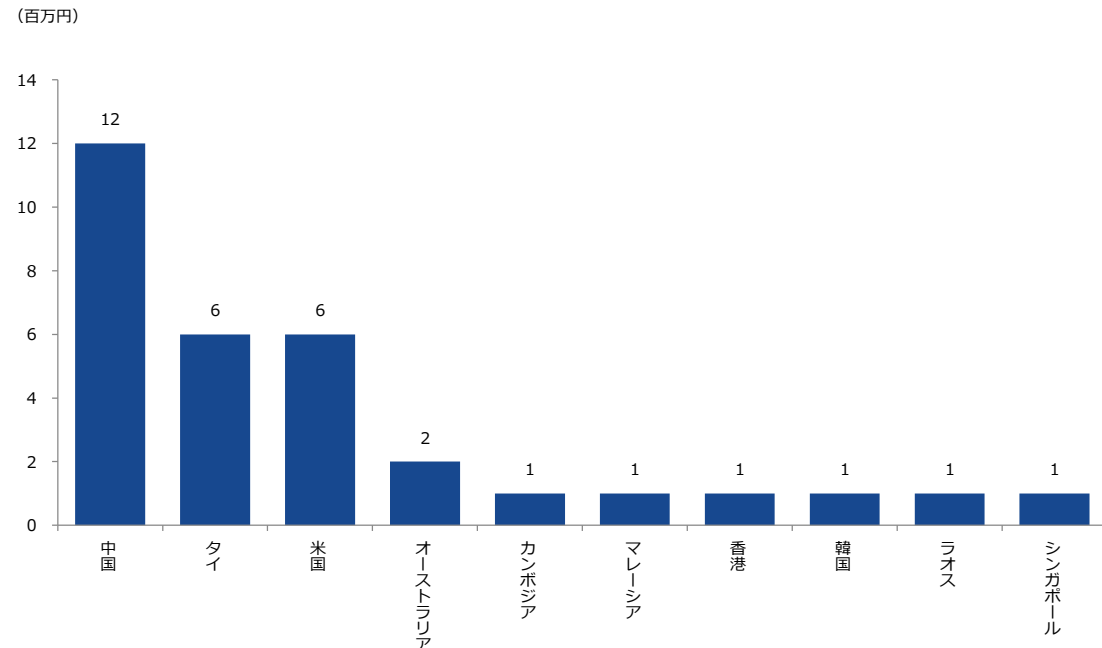


【出典】 観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局 (JNTO) 「訪日外客数」

【注記】 「地域別の訪日外客数 = 地域別の訪問率【観光・レジャー目的】×訪日外客数×旅行目的別構成比【観光・レジャー目的】」により推計している。

・香港、台湾からの訪日外国人が目立ち、上位4国は近隣アジア圏が占めている。

地域別・外国人消費額(2022年9月)



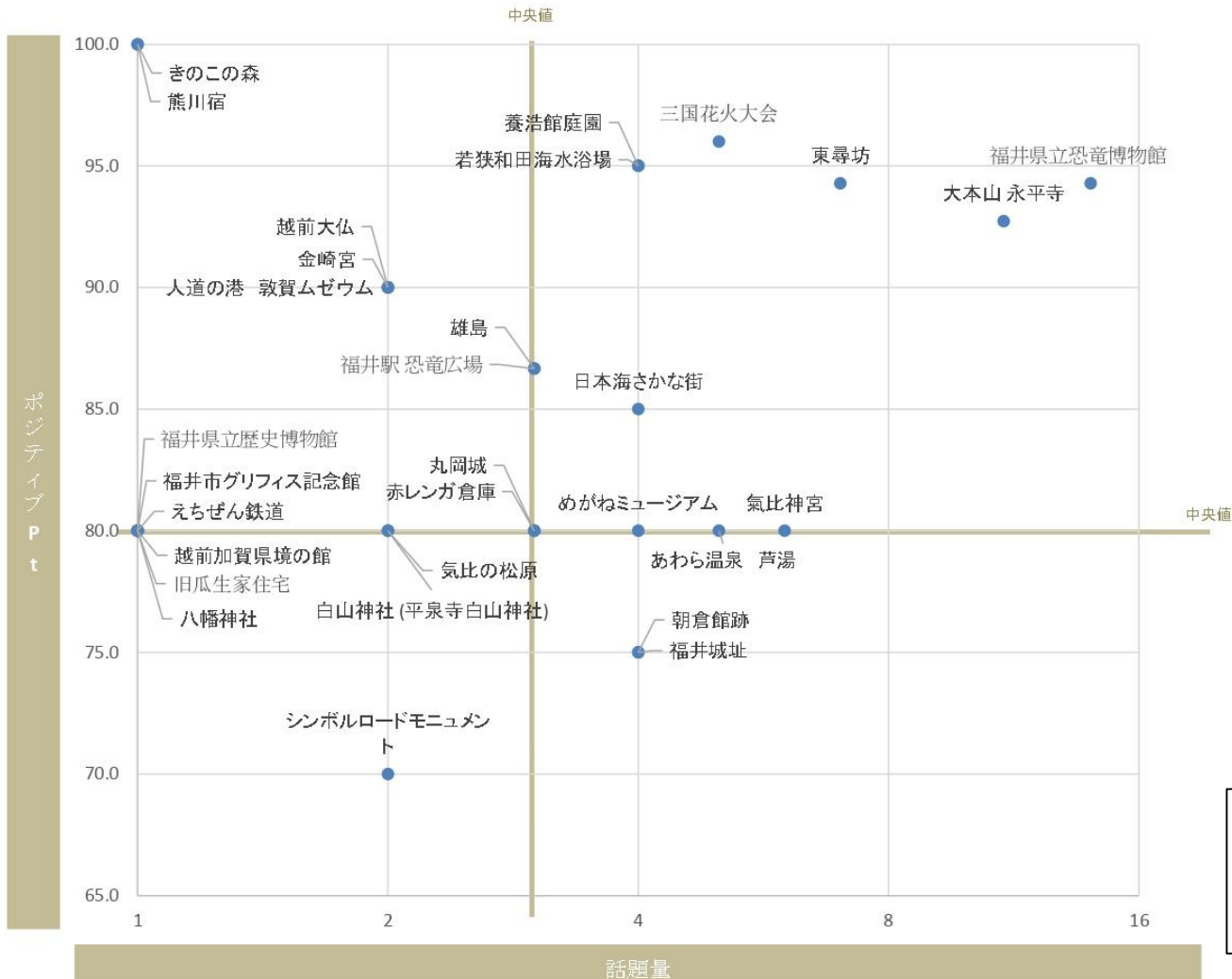
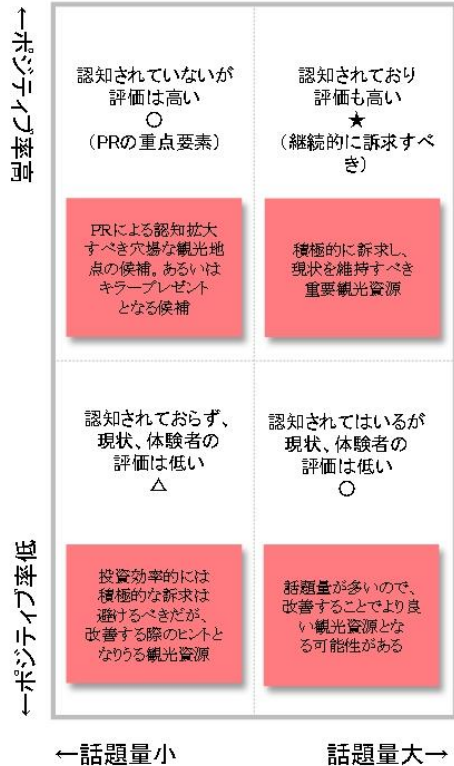
【出典】 ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社のカードデータを再編加工

【注記】 消費額は、外国人訪問客がクレジットカードを使用した消費額を地域別のシェア率等から算出した金額。
国・地域は、カード所有者の居住地であるため、観光客以外の永住者・定住者による消費額も含まれる。

・「中国」が福井県で最も消費しており、2位の「タイ」「米国」と約2倍の差がある。

外国人観光客に人気なスポット

Most Anaba Point 分析の読み方



・「福井県立恐竜博物館」、「大本山永平寺」は認知度、評価ともに高い。
 ・福井市内では、「養浩館庭園」、「福井駅恐竜広場」などへ訪れている。

※話題量上位30件を対象にグラフ化